

<p>研究課題名 (倫理委員会承認番号)</p>	<p>CAS 後の TOF-MRA によるステント内血流の描出の検討 202601</p>
<p>研究期間</p>	<p>2020 年 1 月 1 日 ～ 2026 年 12 月 31 日</p>
<p>研究の対象</p>	<p>上記期間に当院で頸動脈ステント留置術(CAS)を施行した患者。</p> <p>【除外基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本人、あるいは代諾者から承認の得られない患者 ● 医師が不適切と判断した患者
<p>研究の目的・方法</p>	<p>研究の目的: 頸動脈ステント留置術 (CAS) 後のステント内評価には、頸部エコーや CT Angiography が行われることが多い。TOF-MRA では artifact によりステント内評価は困難であると考えられているが、ステント内血流がよく描出される症例もみられる。TOF-MRA でステント内血流が描出される条件・要因について検討する。</p> <p>研究の方法: CAS 後の TOF-MRA において、ステント内血流の描出を 5 段階の grade とする (1:全長にわたって描出されない、2:部分的に描出される、3:ほぼ全長描出されるが、再狭窄を判断できるほど明瞭ではない、4:ステントの端以外は描出され、再狭窄を判断できる、5:全長にわたって描出され、再狭窄を判断できる)。TOF-MRA の施行時期を 5 つに区分し (術後 0 日、1 日、5-9 日、20-40 日、365 日以降)、それぞれ grade 判定する。各症例の経時的な grade の変化や、背景因子、ステントの種類や本数、MRI 機種 (3T or 1.5T) による grade の差異について検討する。背景因子の各項目を、Friedman 検定、Mann-Whitney U 検定、Spearman の相関係数などで比較検討する。</p>

<p>研究に用いる試料・ 情報の種類</p>	<p>情報:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 背景因子：年齢、性別、左右 ● ステンツの種類：WALLSTENT, PRECISE, CASPER の 3 種類 ● MRI 機種：3T Spectra, 3T Lumina, 1.5T Avanto の 3 種類
<p>個人情報の保護</p>	<p>データの解析および研究成果の発表・公表においては、個人を特定できる形としない。</p>
<p>外部への試料・ 情報の提供</p>	<p>該当なし</p>
<p>研究組織</p>	<p>当院の研究責任者: 蛭子裕輔（脳神経外科） 他の研究機関及び各施設の研究責任者: 該当なし</p>
<p>その他</p>	<p>本研究の資金源(利益相反): なし</p>
<p>研究への利用を辞退する 場合の連絡先・お問合せ 先</p>	<p>翠清会梶川病院 脳神経外科 蛭子裕輔</p>